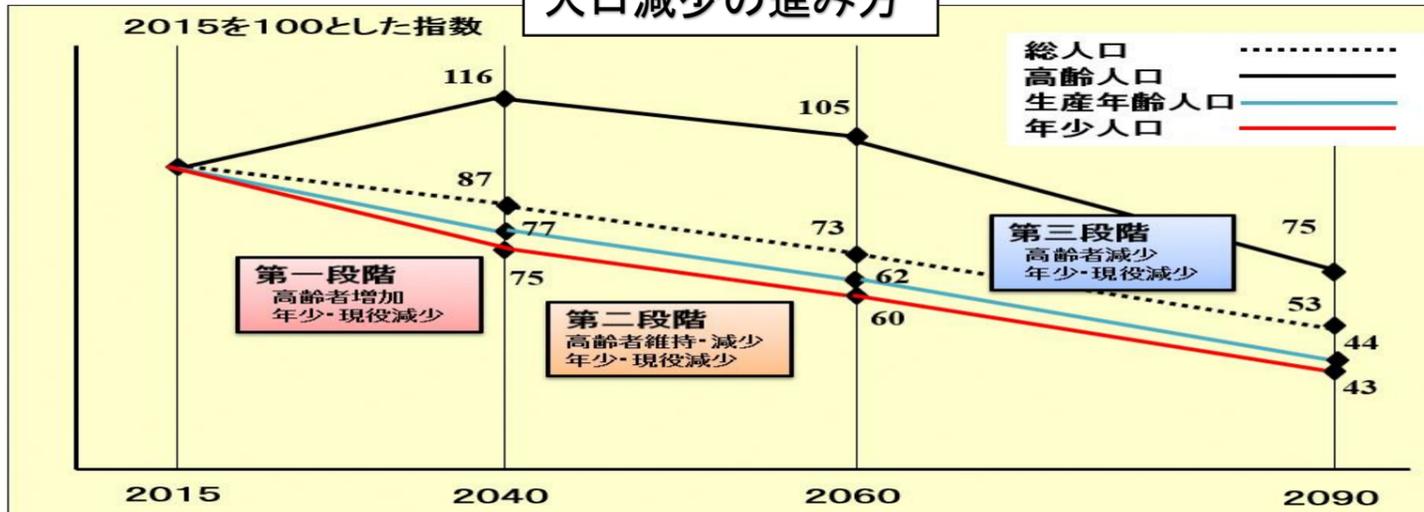


地方創生、次のステージへ - 「ビジョン」から「事業展開」へ

人口減少の進み方



地方創生の次のステージに向けての論点(私見)

1. 事業数をある程度絞り込み、一事業あたりの規模を高める必要があるのではないか。

- ・投入できる資源(人材、予算)を考慮し、都道府県で最大4つ、市町村で2つ程度か。
- ・事業を集約することは、「縦割り」是正の効果も。
- ・3年から5年の事業期間を確保(2020年度以降の事業展開を想定した取組み)

2. 自治体間の「連携」をより重視すべきではないか。

- ・特に、経済社会の面で一定の「圏域」を構成していると考えられる地域の連携、観光などの分野の連携

3. 地方創生事業の中核となる外部民間人材の呼び込み、マッチングに力を入れるべきではないか。

- ・民間企業や経済団体と連携した「準公的」なシステム
- ・民間人材も、地域性や行政の知識を習得する機会が必要。

4. 「ひと」づくりでは、人材の呼び込みだけでなく、将来を考えた人材育成・確保も重要ではないか。

- ・地域の小中高校の魅力化の取組み(北海道の取組み)

5. 「まち」づくりは、様々な手法による「実験的プロジェクト」を展開し、その中から移住効果が高いものを推進していくことが有効ではないか。

人口流入がある大都市(札幌市)

人口流出が続いている地方都市(旭川市、北見市、網走市、釧路市等)

高齢者も減少し始めている地域(函館市、名寄市、根室市等)

全世代で急速に人口減少が進みつつある地域(三笠市、歌志内市等)

○低出生率を改善する

- 札幌市出生率 1.18
- ・未婚率が高い
 - ・共働きが少ない
 - ・三世同居が少ない

○高齢者介護を充実する

○若者の人口流出に「歯止め」をかける

- ◆観光: 十勝バレー(帯広市など)
スノーリゾート(旭川市、東川町等のDMO)
冬季スポーツ拠点(名寄市)
- ◆農林水産: 食材輸出、ICT活用
ナマコなどの養殖(桧山地域)
- ◆再生エネルギー(下川町)
- ◆企業誘致: データセンター(美唄市)
- ◆イノベーション: 地方大学

○移住を推進する

- ◆移住促進: 「ちょっと暮らし」の推進
- ◆生涯活躍のまち(上士幌町)

○地域サービス、集落生活圏を維持する

- ◆コンパクト・ビレッジ(沼田町)
- ◆医師確保(留萌市)
- ◆高校魅力化(市町村立高校)

○「ひと」が来ないことには、地方創生のサイクルが動かない

1. 「事業展開」では、「民間人材」の不足が最も大きな課題

- ◇地方創生人材(内閣府)=ビジョン企画立案
- ◇地域おこし協力隊など=地域おこし、現場人材
- ◇プロフェッショナル人材=民間企業の事業展開

→市町村と首都圏等の民間企業のマッチングを行う「北海道プラットフォーム事業」を推進

2. 「ひと」や「まち」づくりを起点とするルートも重視すべき

- <3つのルート>
1. 「しごと」→「ひと」→「まち」
 2. 「ひと」→「まち」→「しごと」
 3. 「まち」→「ひと」→「しごと」